

令和3年度 富山大学人間発達科学部附属特別支援学校 公開教育研究会  
研究概要

# 子供の主体的な学びを実現する 授業づくり

～子供は何をどのように学ぼうとしているのか～

# 本日の内容

- 1 研究テーマ設定の理由
- 2 子供の「主体的な学び」を  
どのように捉えるか
- 3 主体的な学びを見取り、実現するための  
「聴き合い」と「子供が考え始める仕組み」
- 4 事例より

# 1 研究テーマ設定の理由



# 知的障害のある子供たち

## 様々な理解の仕方

- 学習の意味や目的が伝わりにくい
- どう理解してるのか分かりづらい

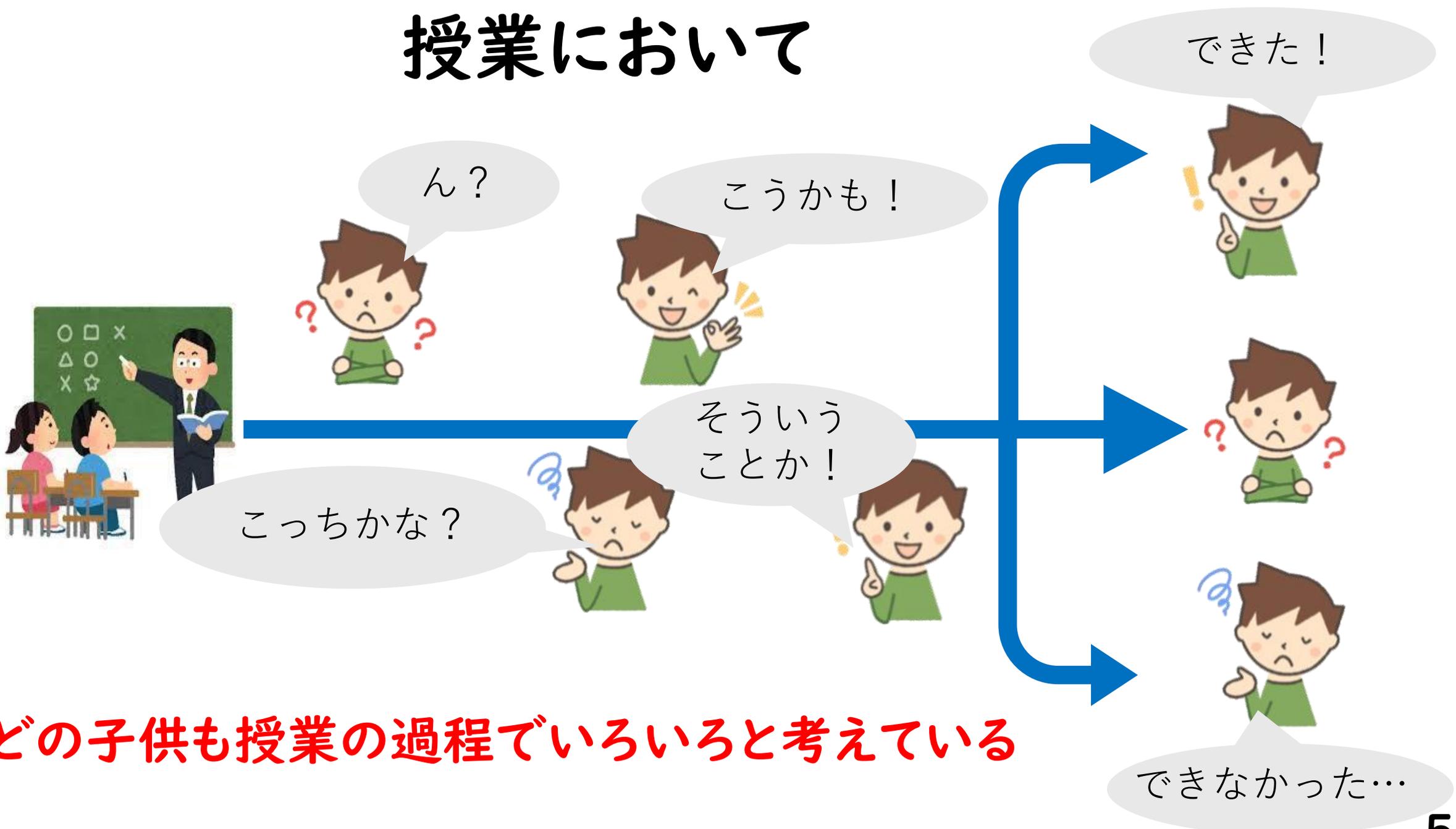


## 伝えることの苦手さ

- 思っていることを言葉で  
説明するのが難しい
- 考えていることが見えにくい



# 授業において



どの子供も授業の過程でいろいろと考えている

# 主体的、対話的で深い学び

## 学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

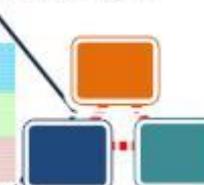
**学習内容の削減は行わない**※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成  
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



子供たちが  
「何を考え、どのように  
学んでいるのか？」

- ・教師の見方や意識の転換
- ・見る力を高める

※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

# 授業研究「学びあいの場」

子供の**学びの過程**に注目し、

「**子供が何を考え、どう学んでいたか**」を

**実際の子供の姿から**見取り、捉えようとする

子供の主体的な学びの  
実現を目指す

子供の視点で見る

聴き合う

## 2 子供の「主体的な学び」を どのように捉えるか



# 子供の主体的な「姿」

「的にたくさん当てよう」



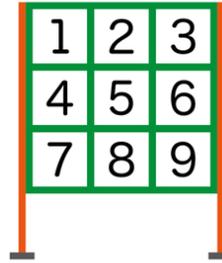
上手だね!  
また当たったね!

- ・楽しそうに何度も投げる
- ・ボールがたくさん的に当たる

環境の整備、支援ツール  
教師の関わり

# 子供の主体的でない？「姿」

「的にたくさん当てよう」



Bさん



難しかったかな？  
分からなかったかな？

- ・ 1回投げてすぐにやめてしまう
- ・ 座ったまま投げようとしな

他の手立てが必要と  
すぐに考えがち

# 結果だけでなく過程に注目すると…

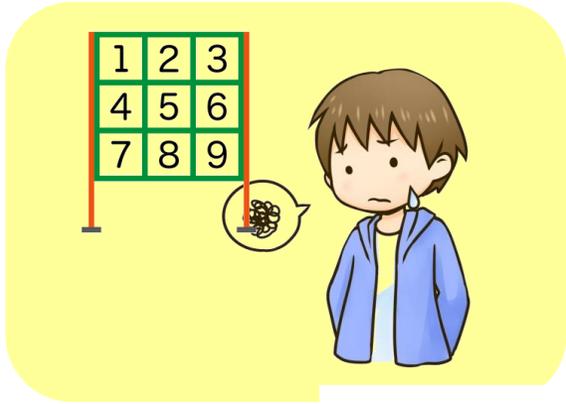


どのくらいの方がいいかな？

こう投げてみよう！

できた！





失敗したくないな…



友達はどうやっているかな？



どこから投げれば当たるかな？



できなかつた…



**実はいろいろ主体的に考えている  
(教師の意図するところ以外にある場合も)**

# 子供の「主体的な学び」

的にたくさんあてよう



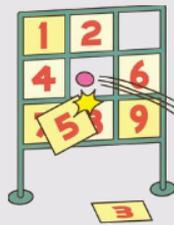
上手だね！  
また当たったね！

- ・楽しそうに何度も投げる
- ・ボールがたくさん的に当たる

子供の  
主体的な「姿」



5つだけで  
高得点を目指そう



すごいね、考えて  
場所を変えてるん  
だね！  
〇〇さんの方法を  
やってみただね

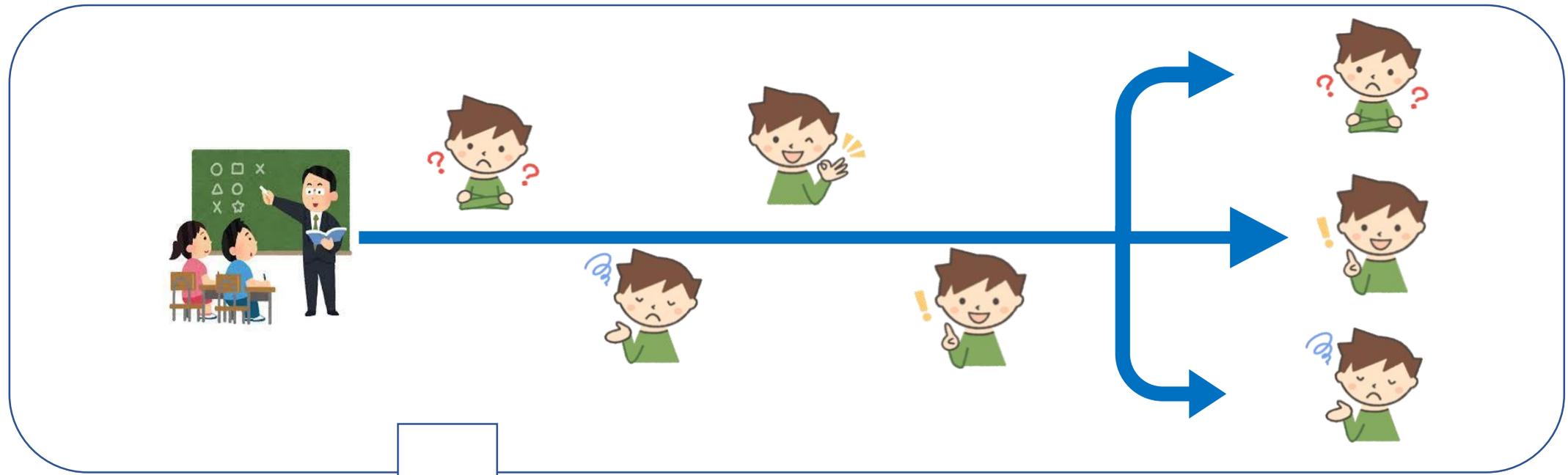
- ・たくさんは投げないけど、  
毎回投げる位置を変えている
- ・友達の様子をじっと見ている

子供の  
主体的な「学び」



主体的な「姿」をベースにして、更なる主体的な「学び」へ

# 目指す「子供の主体的な学び」



何かに気付く

自ら行動を変える

子供が主体的に考えている姿

子供の  
主体的な学び

# 主体的な学びを実現することで「深い学び」へ

子どもの学び方は一人一人違う



主体的な学びの実現

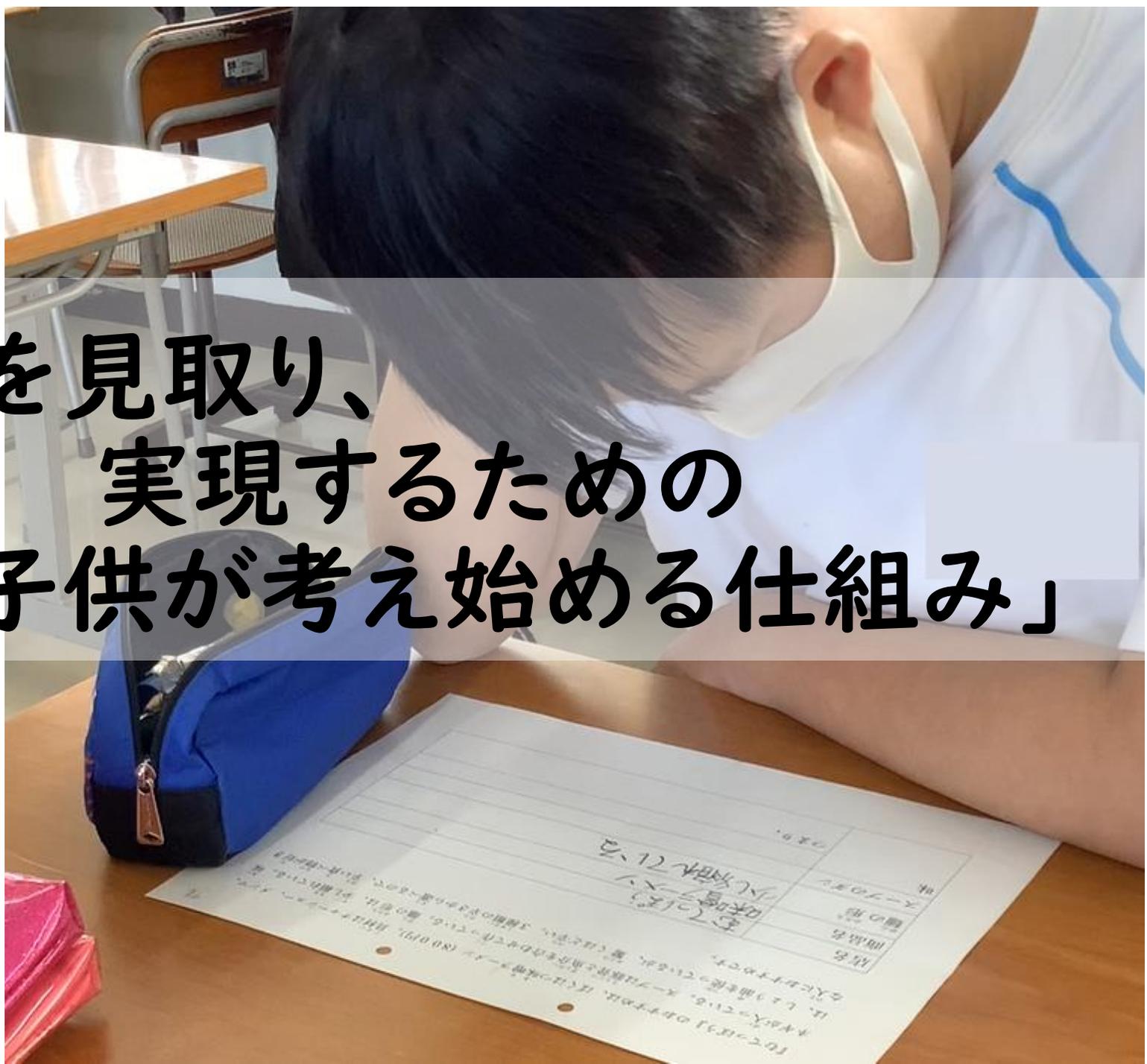
目指す姿（願い）  
単元の目標

問題発見、課題解決的

自分で考え気付く中で  
得られる本質的な学び

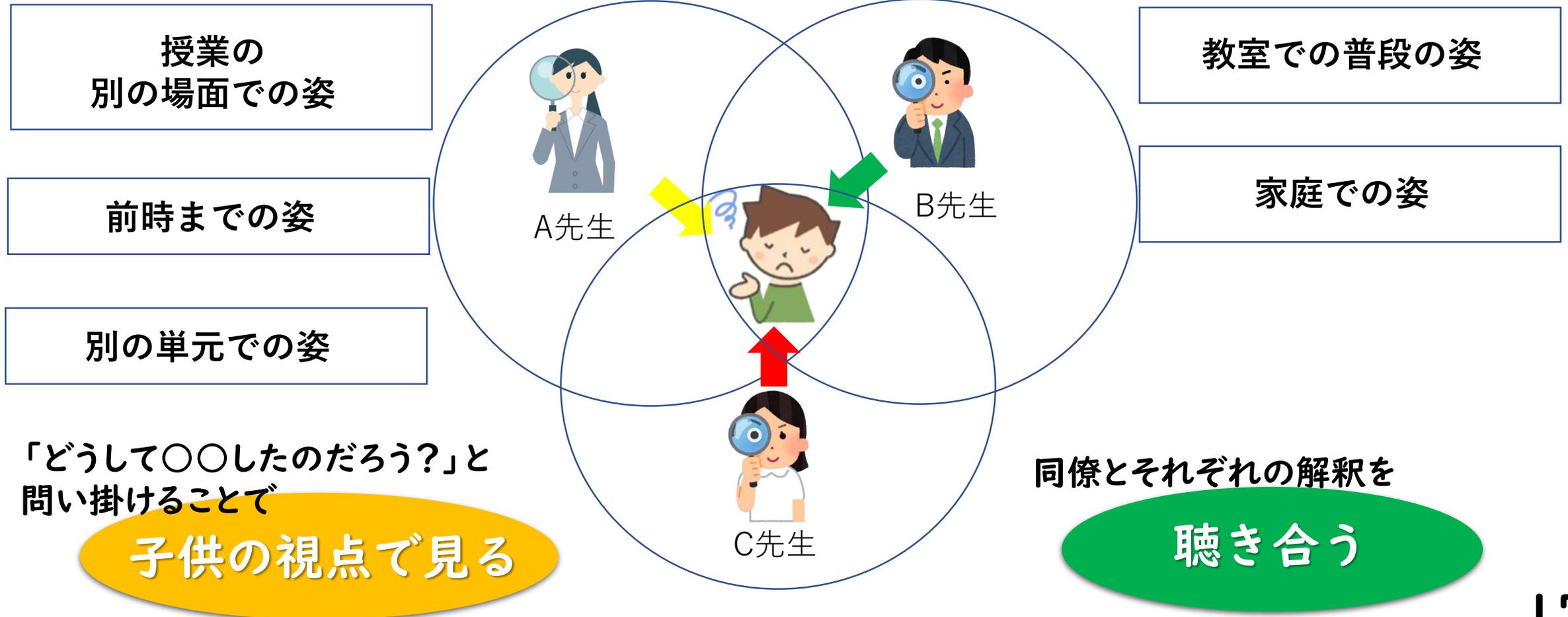
学習の定着や  
生活場面での活用・応用  
につながる

### 3 主体的な学びを見取り、 実現するための 「聴き合い」と「子供が考え始める仕組み」

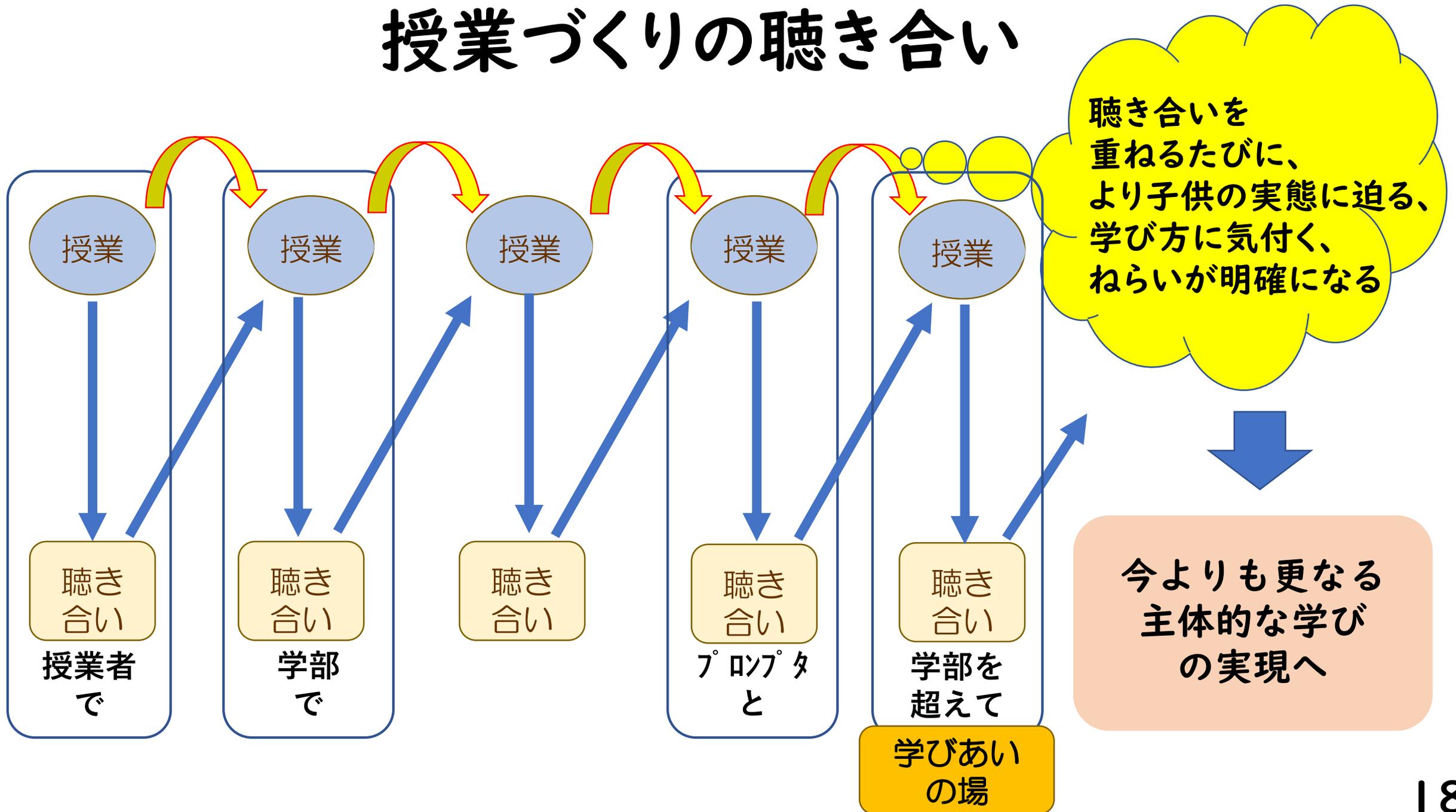


# 子供の主体的な学びを見取るための 「学びあいの場」

## 授業の中の子供の姿



# 授業づくりの聴き合い



# 学部での授業づくりの聴き合い

子供の姿の事実と解釈の  
聴き合い

子供の実態や願いについての  
聴き合い

授業改善への気づきと  
具体的な手立ての聴き合い



子供の姿の事実に基づき  
子供の考え方を尊重した  
授業づくり

# 子供の姿の事実と解釈の聴き合い

気になる場面について2枚のラベルに書く

子どもの言動を  
そのまま描写する



言動ラベル

(つぶやき、動き、視線、関わりなど)

「なぜそうしたのか」  
を子どもの視点で  
推察する



解釈ラベル

(その時の子供の思いや考えを推察)

各自のラベルについて聴き合い、他の人の別の解釈や、別の場面の姿などと重ね合わせていく



「Aさんは、ネットで恐竜を調べるとき、画面を何度もスクロールしていた。」

「何を見れば良いか分からなかったのでは？」

「化石の所を何度も行き来していた。化石が格好いいと思ったのでは？」

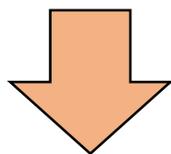
「他の授業でもあるように、自信がなく悩んで進まなかったのでは？」

## 子供の実態や願いについての聴き合い

姿と解釈について聴き合うことで、  
子供の今の実態や考えていることが見えてくる

「〇〇だと思っていた、××は難しいのかもしれない」

「今〇〇に気付いて、  
××が少しずつ分かりかけているのではないか」



「さらに〇〇に気付いてほしい」

「もっと××について  
考えられるとよいのでは」



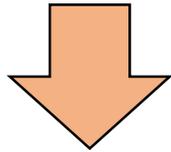
「たくさんの情報（文章）を把握するのは難しいのかもしれない」

「化石について興味を持ち始めているが、何から調べたらよいか分からず自信がないのではないか」

「化石について、興味があることを見つけて、まとめて、自信をもって自分なりに発表してほしい」

## 授業改善への気づきと具体的な手立ての聴き合い

子供の「姿の事実と解釈」に基づいた、  
子供の「実態と願い」が整理される



授業改善のための  
具体的な手立てやアイデア

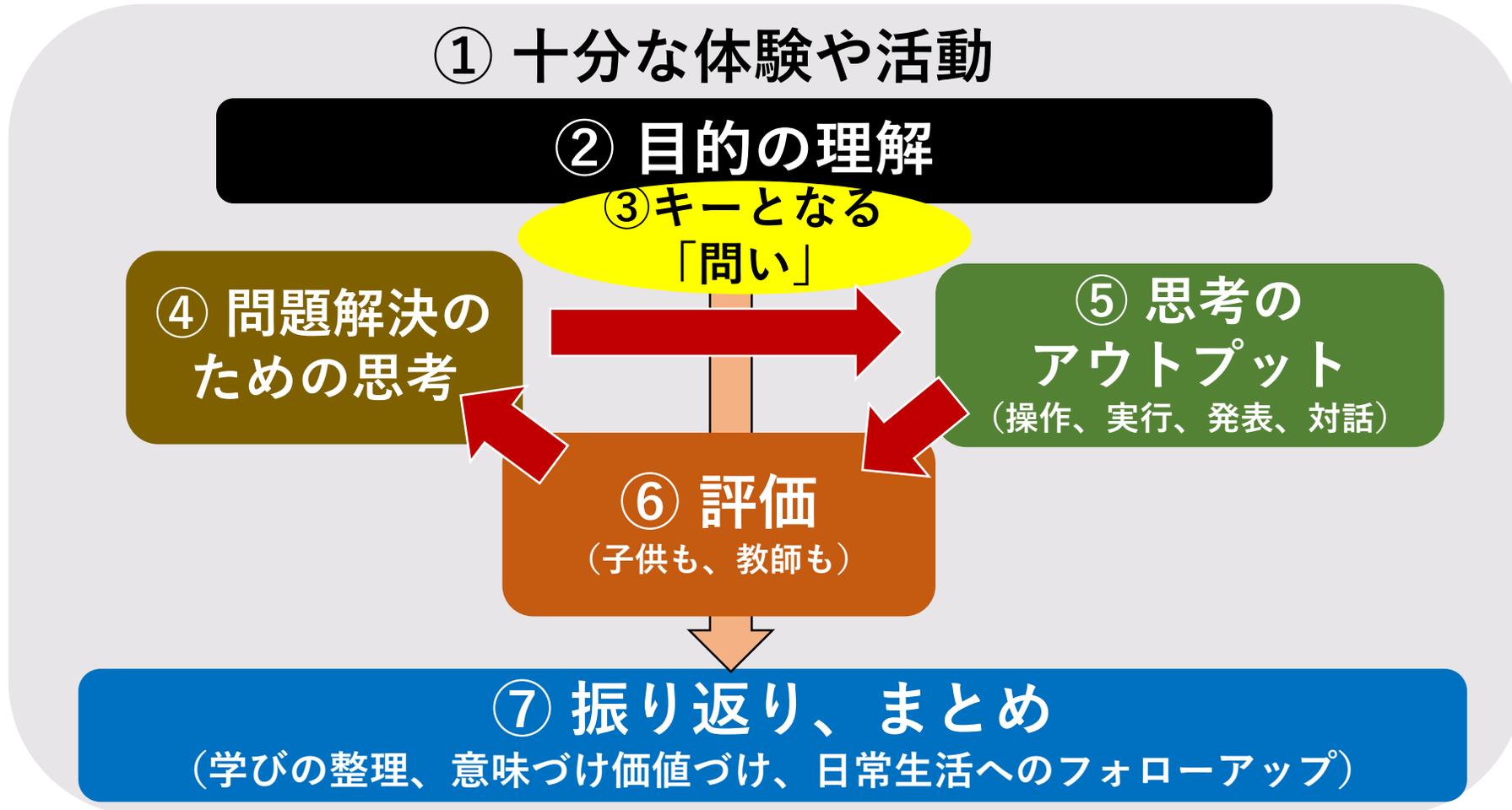
授業者の気づきは？  
次の授業をどうしようと思ったか？



「目的を“化石”にしぼって調べられるワークシートを用意する」  
「まとめや発表に写真を使えるようにする」  
「見付けてきた単語や情報をつないだり、整理したりできるように教師が言葉掛けをする」



# 子供が主体的に考えるための単元構成イメージ



参考：R2年度「プログラミング教育実践の流れとポイント」

① 十分な体験や活動

② 目的の理解

③ キーとなる  
「問い」

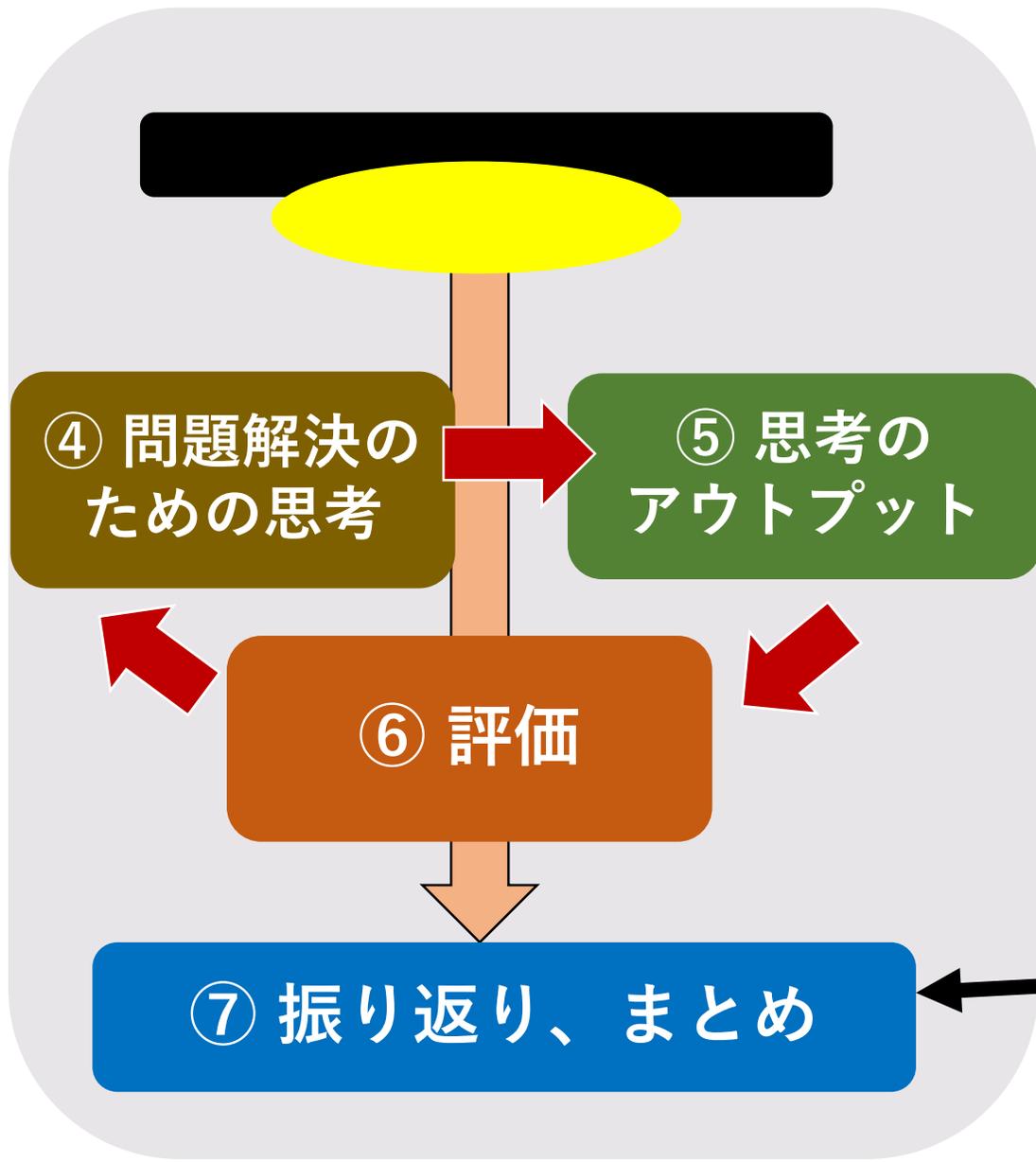
扱う題材について、  
十分に体験し、理解を深める  
→考えるための土台に

単元の目的を理解する、意欲を高める  
(何のためにこの活動をするのか?)  
繰り返し体験したことで、  
活動の意味が分かってくる

問題提起

(じゃあ、〇〇のためにどうしたらよいか?)  
いつもとちょっと違う状況  
(あれ?何かちがう??)

考え始める

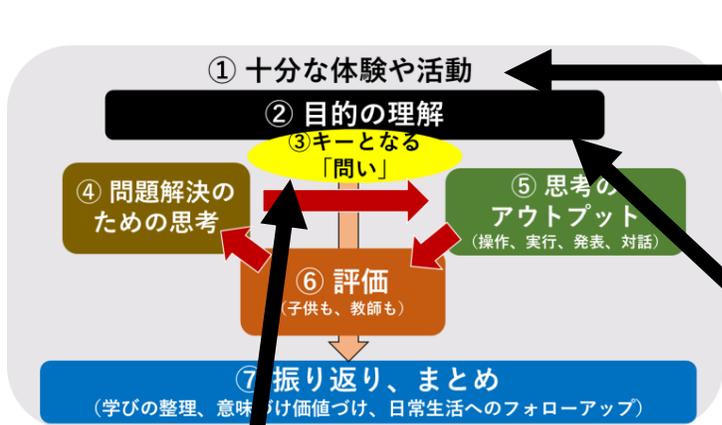


思考を可視化する  
可視化することで思考を確認、評価できる  
(教師も、子供自身も)

「アウトプット→評価」の過程で  
何かに気付き、新たな思考が促される  
→考えが深まっていく、  
整理されていく

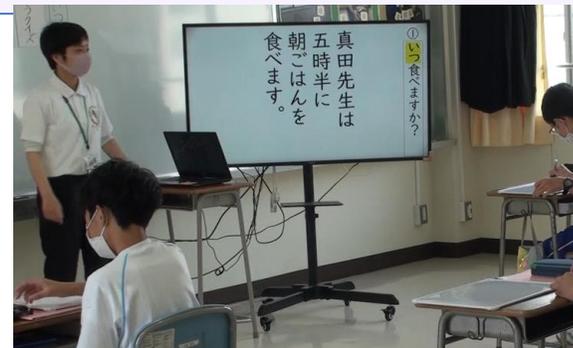
学んだことを整理する、  
日常生活につなげる

# (例) 国語「読み取ろう、伝えよう」



## ① 十分な体験や活動

短文の中から「いつ・どこで・誰が」を見付けるクイズをたくさんすることで、扱う題材に十分に触れ、経験する



## ② 目的の理解

文の中に「いつ・どこで・誰が」が明記してあると分かりやすい。それらを使って分かりやすく伝えられるようになろう

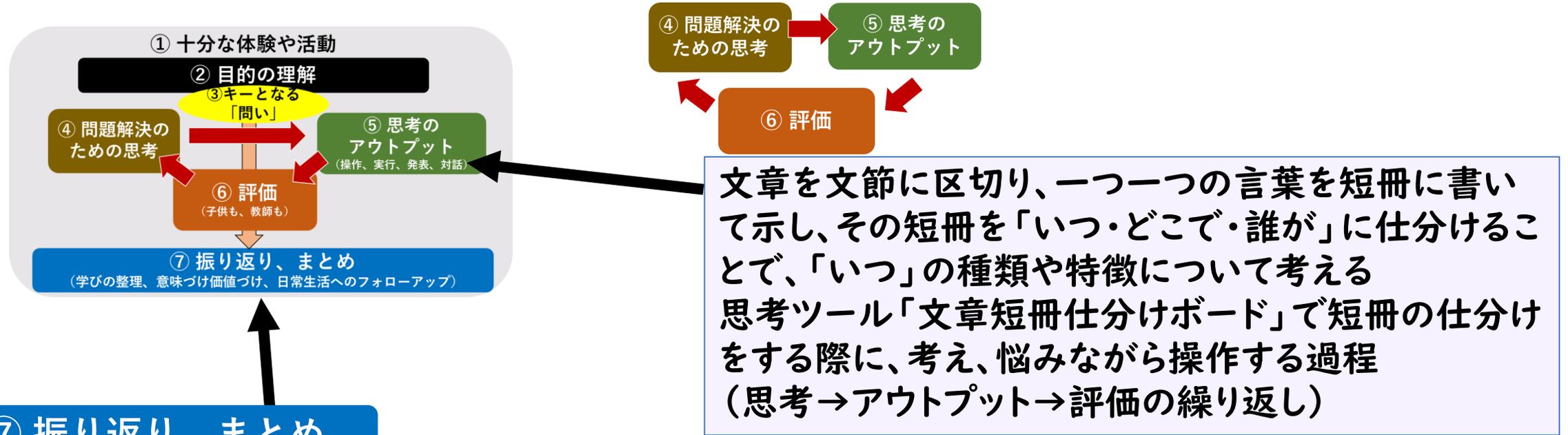


## ③ キーとなる「問い」

じゃあ、「いつ」ってどんなのがあるかな？



# (例) 国語「読み取ろう、伝えよう」



## ⑦ 振り返り、まとめ

いつの具体例をまとめたブックを作り、そのブックを使って、外出の計画を友達に伝える



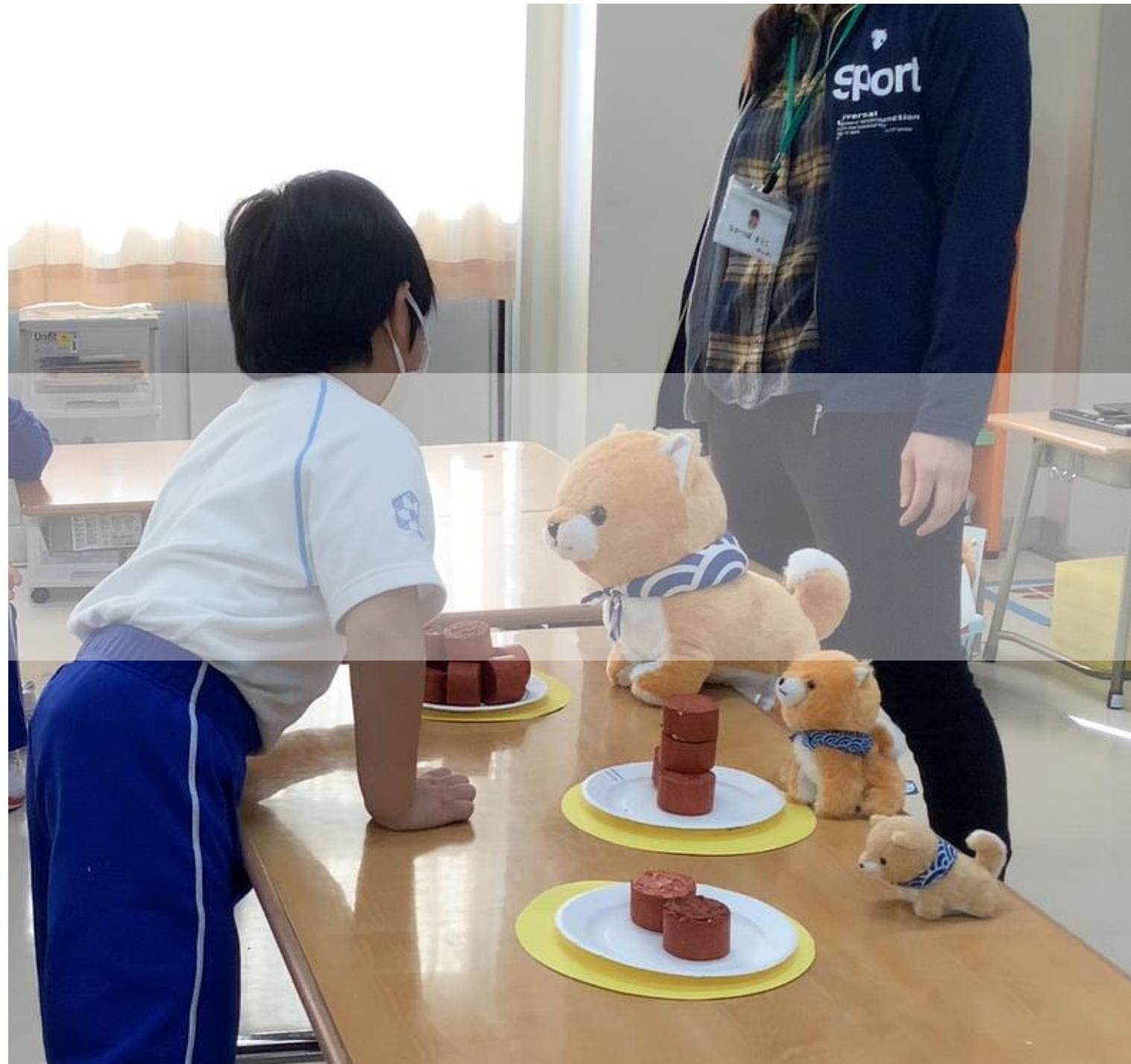
# ブリーフィングシート

ブリーフィングシート R30902	
<授業名> ○○○○○○	<対象児童生徒>○○部○年(○○、○○、○○)
<日時> ○月○日(火) 2限	<授業者> T1:○○ T2、T3:○○、○○
<本時/全体> 2/8	<場所> ○○○○
<授業者の思い>	
授業者の思い	
<授業のねらい、単元構成について>	
授業のねらい、単元構成について	
<児童生徒の捉え(具体的な姿、様子より)>	
児童生徒の捉え (具体的な姿、様子より)	
<気になっていること、話題にしたいこと、生徒の姿を見てほしいところ>	
気になっていること 話題にしたいこと	
<その他>	
その他	

## 授業のねらい、単元構成について

- ・十分な体験や活動の機会
- ・単元の目的
- ・キーとなる問い
- ・問題解決のための思考の機会
- ・思考をアウトプットする機会

# 4 事例より



# 授業の概要

- ・小学部1～2年 6名
- ・算数「くらべてみよう(多い・少ない)」
- ・目標:2つのものの数や量を比べることで、ものの多少が分かる。  
ものの多い、少ないを表現することができる。

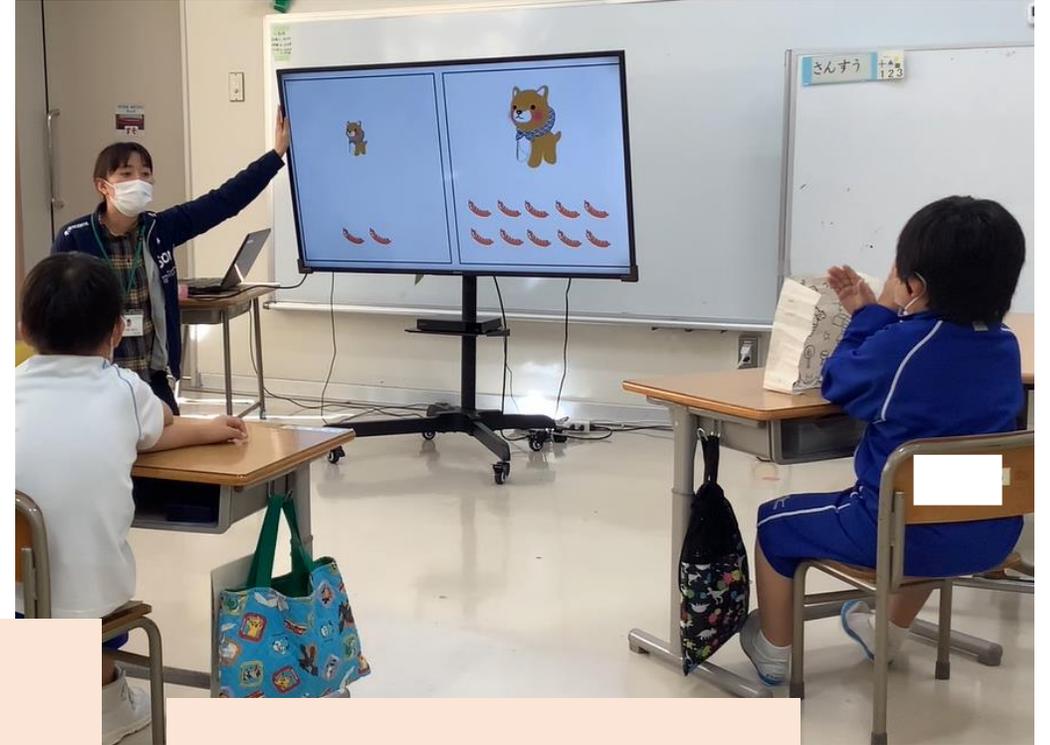
- ・大きい犬と小さい犬の絵を見せたときに、どちらの犬が大きい(小さい)と正しく答えることができた。
- ・「大きい犬には多いエサ、小さい犬には少ないエサをあげよう」という課題に取り組む



# 授業づくりの聴き合い(学部)

## 子供の姿の事実と解釈の聴き合い

絵を見て「少ないのはどっち?」と聞かれた場面で、Aさんが少ない方の絵を指さしたときに、Bさんは手で×を作り「ちがうちがう」と言った。



質問されていることが変わった(多い→少ない)ことに気が付いていないのではないか

多いことが○、少ないことが×だと思っているのではないか

エサの量や数ではなく、犬の大きさに注目していたのではないか

# 子供の姿の事実と解釈の聴き合い



コップにたくさんの水が入っている絵を見て、  
下から上に両手を広げた

多い少ないを感覚的に  
捉えていたのではないか



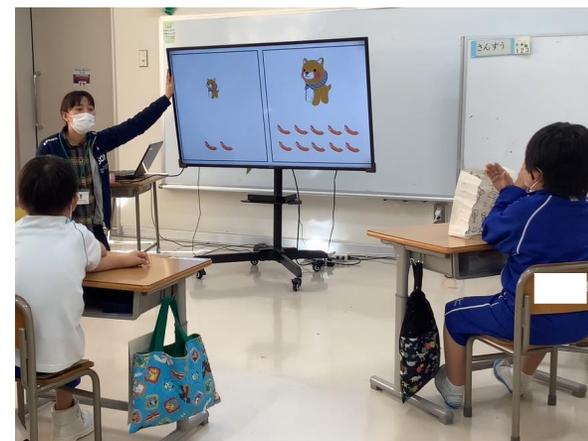
どっちが多い?と聞かれ、  
多い方を選んで「こっちが  
大きい」と言った

多い少ないを大きさを  
捉えていたのでは  
ないか

## 子供の実態や願いについての聴き合い

- ・量や数を「多い・少ない」ではなく、「大きい・小さい」などの感覚的に捉えている傾向がある

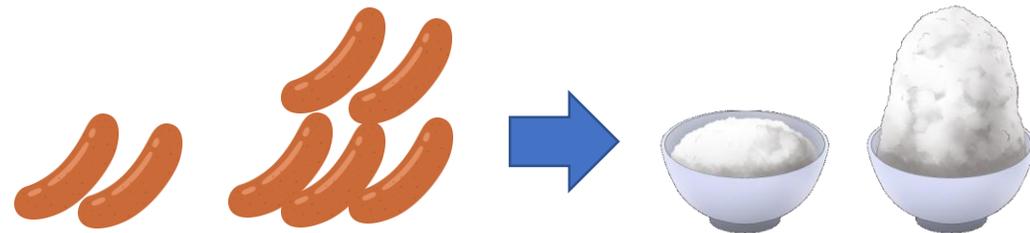
- ・「大きい(小さい)犬に多い(少ない)エサをあげよう」はできるが、「どっちのエサが多い?少ない?」は難しい



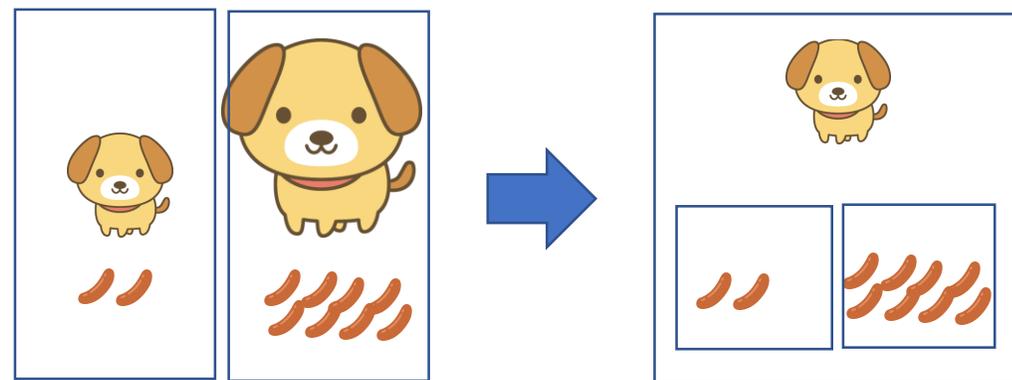
Bさんの捉え方を大事にしながらも  
量にも気付いて考えられるようになってほしい

# 授業改善への気づきと具体的な手立ての聴き合い

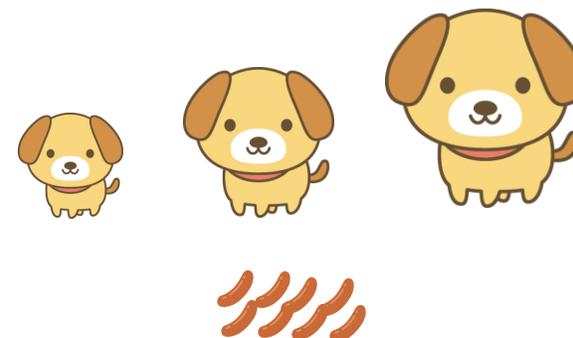
- ・エサを本数ではなく、感覚的な量で示す



- ・犬の大きさではなく、エサの量に注目して考えられるような課題の提示にする



- ・中くらいの犬を作って、エサを3匹に分ける活動をする



# 授業者の思い

Bさんの捉え方を大事にしながら、量にも気付いてほしい  
→いろいろな量を体感できるようにしたい

「多い・少ない」について自分で操作して考える中で理解を深め、  
表現できるようになってほしい  
→犬の大きさや数を変えるなどして操作する中で、Bさんが  
思っていることを確かめたい

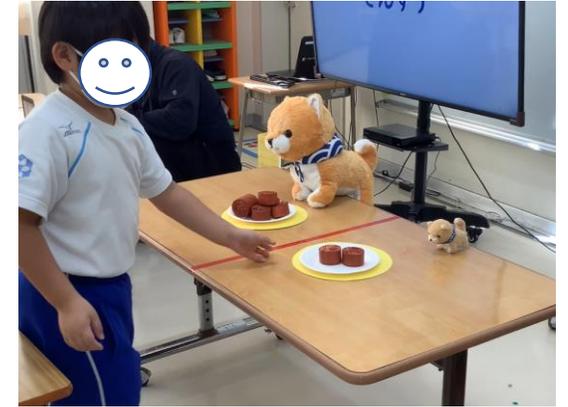
友達の様子を見ることで、新たな気付きや「やってみようかな」という  
気持ちをもってほしい  
→友達の分け置く様子を見たり、どうやって分けたかを聞いたり  
する機会をもちたい

# 聴き合いを受けての授業改善

- ・感覚的に量を捉えられるように皿に盛りつけて提示



- ・「肉だんご」「ハンバーグ」など、エサを変えながら大小の2匹に分ける活動に繰り返し取り組む



- ・肉を焼いたり、盛り付けたりする活動の中で実際にいろいろな量を体感する

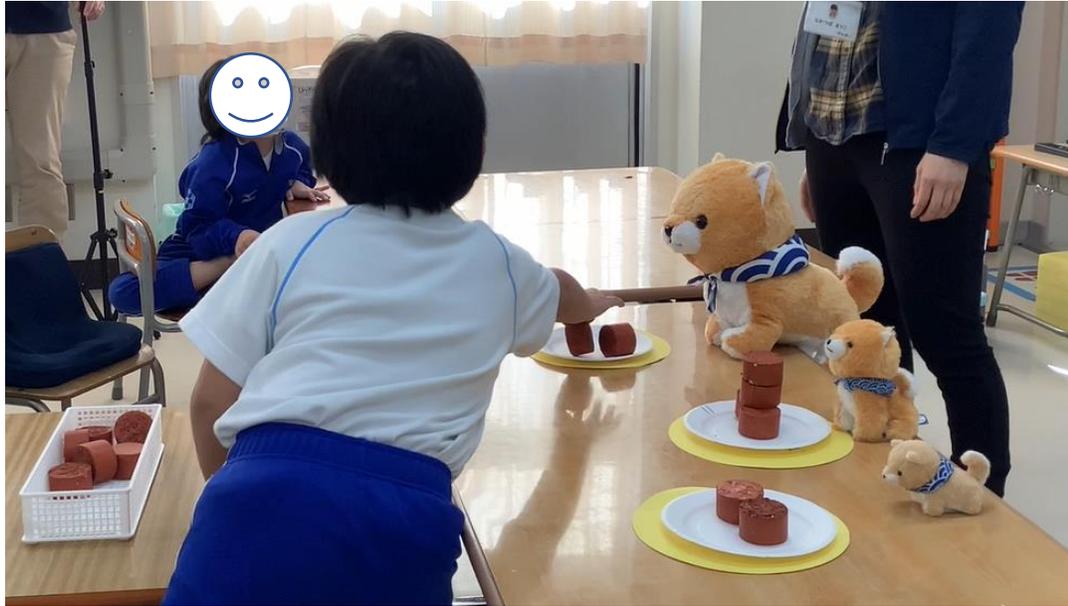


① 十分な体験や活動

② 目的の理解

キーとなる  
「問い」

「じゃあ今度は、大中小3匹の犬に  
エサを分けられるかな？」



- ・籠の中のエサを  
実際に3匹に仕分けてみる
- ・隣の友達の様子も見てみる



④ 問題解決の  
ための思考

⑤ 思考の  
アウトプット

⑥ 評価

# Bさんの主体的な学び



調整しながら大中小に  
分けることができた

教師「どうしてこうしたの？」



Bさん：「1, 2」

「1, 2, 3・・・10」



感覚的な量→数に着目

「数によって量を表したり、調整したり  
することができる」ことに気付く

# 各学部の公開授業

- **小学部**

生活単元学習「ゲーム屋さんを開こう」

- **中学部**

国語「俳句を作ろう」

- **高等部**

国語「情報を読み取ろう」

# 附記

本校は、パナソニック教育財団の  
「2021年度（第47回）実践研究助成」を  
受けております。

また、株式会社LoiLoの「とりあえずロイロ」  
キャンペーンの協力を受けております。

